

重点戦略1 (案) 魅力を生かす ※4つの強みと地理的優位性を合わせた「5つの魅力」を生かすことで、市民が幸せを実感し、市民や企業から選ばれ、成長・発展する戦略を進め、将来都市像である「上質な生活都市」「東日本の中核都市」の実現を目指す。

魅力1 環境
(案) 身近に自然とふれあえる環境共生都市

《生かしたい強み》

- ・首都圏にありながら豊かな自然資源を有する（見沼田圃・荒川・元荒川による緑の骨格、緑地や水辺、多様な生物など）
- ・「次世代自動車・スマートエネルギー特区」（平成31年度で終了）としての実績
- ・政令市中最多の快晴日数

《市民の声》

都市と自然がバランスよく共存、水と緑に恵まれている

《重点ポイント（強化）》

- ◆首都圏有数の自然環境の活用（2-3-2）
 - ・見沼田圃の次世代への継承
- ◆脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開（2-1-1）
 - ・再生可能エネルギーの積極的導入 ・電力の地産地消

魅力2 健康
(案) 心身ともに活力ある健康快適都市

《生かしたい強み》

- ・市民の健康意識の高さ（市国保特定健康診査受診率3位〈政令市順位〉、市国保特定保健指導実施率3位〈政令市順位〉、要介護認定率の低さ2位〈政令市順位〉）
- ・平坦な地形（居住地傾斜度3°未満の割合1位〈政令市順位〉）

《市民の声》

平らで歩きやすい、健康寿命を延ばすことが大事

《重点ポイント（強化）》

- ◆ライフスタイルやライフステージに応じた健康づくり（3-1-1）
 - ・ICTを活用した科学的根拠に基づいた健康づくり
 - ・歩くことを中心に楽しく続ける健康づくり
 - ・「健幸」で元気に暮らせるまちづくり

※「健幸」…身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、心豊かな生活を送れること

魅力3 スポーツ
(案) 笑顔あふれる日本一のスポーツ先進都市

《生かしたい強み》

- ・スポーツ観覧料4位（政令市順位） ・大規模スポーツ施設
- ・Jリーグ2チーム、なでしこリーグ、女子プロ野球チームの本拠地
- ・市民の週1回以上のスポーツ実施率の増加
- ・（一社）さいたまスポーツコミッションによる誘致活動
- ・さいたま国際マラソンの開催、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの開催
- ・東京2020大会レガシー（サッカー及びバスケットボール会場）

《市民の声》

スポーツが盛ん、スポーツ施設が充実

《重点ポイント（強化）》

- ◆生涯スポーツの振興
 - ・地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会の提供（3-1-1）
 - ・スポーツを通じた地域コミュニティの形成・醸成（3-2-1）
- ◆スポーツを活用した総合的なまちづくりの推進（3-2-1）
 - ・サッカーを核とした「スポーツのまち さいたま」の発信
 - ・スポーツツーリズムなどによる観光、交流人口の拡大（市民参加型スポーツイベントの開催、民間力等を活用したスポーツ環境の整備）

魅力4 教育
(案) 子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市

《生かしたい強み》

- ・全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っている」（将来に関する意識）「自分にはよいところがあると思う」（自尊意識）と答えた児童生徒の割合（全国、大都市平均以上）
- ・全国学力・学習状況調査実施科目の平均正答率トップクラス
- ・将来、グローバル社会に主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒の育成を目指した、国に先駆けた本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」の推進

《市民の声》

教育水準が高い、教育熱心、文教都市

《重点ポイント（強化）》

- ◆未来を拓くさいたま教育で子どもの力を伸ばす
 - ・12年間の学びの連続性を生かした真の学力の育成（4-1-1）
 - ・グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成（4-1-2）

魅力5 「交通の要衝」と「災害に強い」2つの地理的優位性
(案) ヒト・モノ・情報が集まる東日本の対流拠点都市

《生かしたい優位性（基本条件）》

- ・「東日本の玄関口」となる交通結節点（新幹線の乗り入れ路線数6路線）
- ・「東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点」（首都圏広域地方計画における対流拠点への位置づけ）
⇒大宮駅グランドセントラルステーション化構想策定、東日本連携センター開設、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の進出拠点としての位置付け
- ・地理的条件により、大規模な自然災害が起こりづらい

《市民の声》

鉄道・道路の交通利便性、東京・各都市へのアクセスの良さ、災害が少ない

《重点ポイント（強化）》

- ◆国際的な結節機能の充実（9-1-1、9-1-2、9-1-3）
 - ・東日本の交流拠点機能の強化 ・広域鉄道・道路網の強化 ・空港へのアクセス強化
- ◆対流拠点機能の集積強化（11-1-4、11-2-1）
 - ・東日本の「ヒト・モノ・情報」の交流、発信 ・広域周遊観光ルート構築 ・MICEの推進
- ◆広域防災拠点機能の強化（10-1-1）
 - ・災害時のバックアップ拠点機能の強化（広域防災拠点の要となる防災公園の整備）

重点戦略のテーマイメージ

重点戦略 2 (案) **課題に対応する** ※本市が直面する課題に対応し、未来に引き継ぐための持続可能なまちづくりを進め、将来都市像の実現を目指す重点戦略 1 の下支えをする。

課題 1 少子高齢化の進行への対応

(案) あらゆる世代が共に生き、活躍できるまちづくり

《問題点・弱み》

- ・団塊ジュニア世代が多く、今後急速に高齢化が進む見込み
- ・待機児童数が多い（保育園・放課後児童クラブ）

《市民の声》

待機児童が多い、放課後児童クラブの不足、子どもの遊び場、高齢者や障害者への支援、高齢者人材の活用

《重点ポイント（強化）》

◆子ども・子育てを支える都市の実現

- ・安心して妊娠・出産・子育てできる切れ目ない支援（7-1-1）
- ・子育てニーズに対応した多様な受け皿の確保と質の向上（7-1-2、7-1-3）

◆心身ともに健康的で安心して長生きできるまちづくり

- ・地域づくりによる介護予防の取組（6-1-1）

課題 2 経済のグローバル化と技術革新の進展への対応

(案) 強い産業力の醸成で躍動するまちづくり

《問題点・弱み》

- ・生産年齢人口減少による産業の担い手不足
- ・県内外との都市間競争の激化
- ・AI 等最新の技術革新による産業構造の変化

《市民の声》

さいたま市のイメージ・特色・ブランド、東西や地域間の交通利便性、昔ながらの商店の衰退

《重点ポイント（強化）》

◆地域産業の振興と新たな産業の創出

- ・成長分野におけるイノベーションの創出（11-1-3）
- ・活力ある地域産業を育てる環境の整備（11-1-1）
- ・商店街のにぎわい創出（11-1-2）

◆地域経済を支える人材の育成、就労支援及び魅力ある就労環境の整備

（11-1-5）

課題 3 安全・安心に対する意識の高まりへの対応

(案) 災害に強く、市民の安全・安心を守るまちづくり

《問題点・弱み》

- ・大規模自然災害による甚大な被害への懸念
- ・高齢者の交通事故の割合の増加傾向
- ・市民の身近なところで起きる街頭犯罪の割合が高い（全国・県平均以上）

《市民の声》

災害への意識が希薄、道路が狭い、歩道がない、危険な交差点や道路が多い

《重点ポイント（強化）》

◆災害に強い都市基盤整備（10-1-1）

- ・防災上の課題に応じた都市・生活インフラ等の整備

◆地域と共に進める災害対策

- ・防災意識と地域防災力の向上（10-1-2）
- ・消防・救急体制の充実強化（10-1-3）

◆安心して暮らせる都市の実現

- ・交通事故の防止（5-1-1）
- ・地域と連携した防犯の推進（5-1-2）

課題 4 地球環境問題の深刻化への対応

(案) 環境に配慮した暮らしを実践する、循環型のまちづくり

《問題点・弱み》

- ・温室効果ガス排出量の増加

《市民の声》

節電や省エネに対する意識が低い、ごみの削減意識が低い、車がないと不便、駅周辺の渋滞

《重点ポイント（強化）》

◆環境に配慮したライフスタイルへの転換（2-1-1、2-2-1、9-2-3）

- ・廃棄物の 3 R（発生抑制・再利用・再生利用）の推進
- ・過度な自動車利用から公共交通機関や自転車・徒歩への利用転換

◆良好な生活環境及び自然環境の保全（2-3-1）

課題 5 社会の多様性と市民活動の高まりへの対応

(案) 互いを尊重し、絆で支え合うまちづくり

《問題点・弱み》

- ・市民ニーズの多様化・高度化
- ・家族や地域での支え合い意識の希薄化や「地域力」の低下
- ・自治会加入率の減少

《市民の声》

外国人との交流、地域のつながりが希薄、地域活動参加者が少ない

《重点ポイント（強化）》

◆誰もが自分らしく暮らせる地域共生社会の実現

- ・人権を尊重する意識の醸成（1-2-1）
- ・多文化共生社会の推進（1-3-1）
- ・ノーマライゼーション理念の実現（6-2-1）

◆ふれあいのある地域社会の形成

- ・地域住民等の交流や自主的活動の促進（1-1-1）
- ・スクール・コミュニティによる連携・協働の充実（4-1-4）

◆生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市の創造（8-1-1）

重点戦略項目（案）		重点ポイント（案）	章	節	項目	関連する施策展開（案）	
重点戦略1 （魅力を生かす）	魅力1 環境	首都圏有数の自然環境の活用	2	3	2	見沼田圃の次世代への継承	
		脱炭素社会に向けた先駆的な技術やサービスの展開	2	1	1	脱炭素社会に向けた地球温暖化対策の推進	
	魅力2 健康	ライフスタイルやライフステージに応じた健康づくり	3	1	1	スポーツなどを通じた健康づくりの意識醸成	
	魅力3 スポーツ	生涯スポーツの振興	スポーツなどを通じた健康づくりの意識醸成（再掲）	3	1	1	スポーツなどを通じた健康づくりの意識醸成（再掲）
			スポーツと広範な分野の連携を通じた総合的なまちづくりの推進	3	2	1	スポーツと広範な分野の連携を通じた総合的なまちづくりの推進
			スポーツを活用した総合的なまちづくりの推進	3	2	1	スポーツと広範な分野の連携を通じた総合的なまちづくりの推進（再掲）
	魅力4 教育	未来を拓くさいたま教育で子どもの力を伸ばす	12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成	4	1	1	12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
			グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成	4	1	2	グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成
	魅力5 「交通の要衝」と「災害に強い」2つの地理的優位性	国際的な結節機能の充実 対流拠点機能の集積強化 広域防災拠点機能の強化	都市基盤整備の推進	9	1	1	都市基盤整備の推進
			多様で高次な都市機能の集積	9	1	2	多様で高次な都市機能の集積
			広域的な交通施策の推進	9	1	3	広域的な交通施策の推進
			東日本連携による経済交流の活性化	11	1	4	東日本連携による経済交流の活性化
			地域資源などの魅力を生かした観光の振興	11	2	1	地域資源などの魅力を生かした観光の振興
			災害に強い都市基盤整備	10	1	1	災害に強い都市基盤整備
	重点戦略2 （課題に対応する）	課題1 少子高齢化の進行への対応	子ども・子育てを支える都市の実現	7	1	1	安心して妊娠・出産・子育てできる切れ目ない支援と親と子の健康づくり
7				1	2	安心して子どもを育てられる環境づくり	
7				1	3	次代の社会を担う子ども・青少年が健全に成長する環境づくり	
6				1	1	可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる社会の実現	
課題2 経済のグローバル化と技術革新の進展への対応		地域産業の振興と新たな産業の創出 地域経済を支える人材の育成、就労支援及び魅力ある就労環境の整備	11	1	1	活力ある地域産業を育てる環境の整備	
			11	1	2	商業活性化のためのにぎわいづくり	
			11	1	3	さいたま市の特性を生かした新たな産業の創造	
			11	1	5	地域経済を支える人材の育成、就労支援及び魅力ある就労環境の整備	
課題3 安全・安心に対する意識の高まりへの対応		災害に強い都市基盤整備 地域と共に進める災害対策 安心して暮らせる都市の実現	10	1	1	災害に強い都市基盤整備（再掲）	
			10	1	2	地域と共に進める災害対策	
			10	1	3	消防・救急体制の充実強化	
			5	1	1	交通事故の防止	
			5	1	2	地域と連携した防犯の推進	
課題4 地球環境問題の深刻化への対応		環境に配慮したライフスタイルへの転換 良好な生活環境及び自然環境の保全	2	1	1	脱炭素社会に向けた地球温暖化対策の推進（再掲）	
			2	2	1	廃棄物の3R（発生抑制・再利用・再生利用）の推進	
	9		2	3	公共交通・生活道路・自転車利用環境の充実		
課題5 社会の多様性と市民活動の高まりへの対応	誰もが自分らしく暮らせる地域共生社会の実現 ふれあいのある地域社会の形成 生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市の創造	1	2	1	人権を尊重する意識の醸成		
		1	3	1	国際協力・多文化共生社会の推進		
		6	2	1	誰もが地域で安心して、共に暮らす権利を尊重し、暮らしていける地域社会の実現		
		1	1	1	地域住民等の交流や自主的活動の促進		
		4	1	4	スクール・コミュニティによる連携・協働の充実		
8	1	1	文化芸術を活用したまちの活性化				

将来都市像

上質な生活都市

これまでの都市づくりで目指してきた人と自然が共生する「環境共生都市」と、心豊かな生活と個性と魅力にあふれる「生活文化都市」を合わせることで、多様化・高度化する市民ニーズを捉え、本市の強みを最大限に生かし、誰もが「住みやすい」と思える都市づくりを進める目標

東日本の中核都市

平成 28 年に「国土形成計画」において「大宮は東日本の対流拠点である」とされたことから、現在の都市像をさらに進め、市として東日本の中核都市としての地位を確立させていくことで、シビックプライドが醸成され、誰もが「住み続けたい」と思うことができる都市づくりを進める目標

